

やちご通信 やすらぎと笑顔の学校



北九州市立八児中学校

文責 学力向上推進委員会

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。
 この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
 学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
 なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

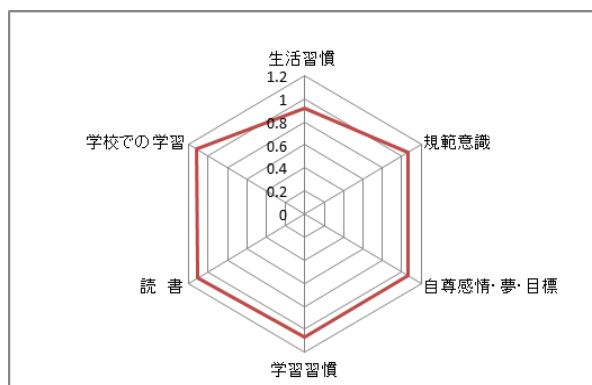
1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 国語への関心・意欲・態度は全国平均を上回っており、書く能力についても全国平均を上回っている。 読む力を問う問題の平均正答率が低く、読む能力に課題がある。
国語B	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より、正答率が上がっており、記述式の問題形式の平均正答率が全国平均を上回っている。また、無回答率がすべての設問で全国平均を下回っている。 書く能力は全国平均を上回っているが、読む能力に課題がある。
数学A	同程度である	<ul style="list-style-type: none"> 図形を除くすべての領域で全国平均を上回っている。数学的な技能については、全国平均と同程度である。 ほとんどの設問で無回答率が全国平均を下回っている。
数学B	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> すべての領域において、全国平均を下回っており、特に図形に関する正答率が低かった。 計算はできるが、数学的に表現したり説明したりすることに課題がある。

2 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

- 本校生徒は、起床時間がほぼ決まっており、朝食を毎日食べている一方、就寝時間が午前0時以降の割合が40%を超えている。
- 学校の宿題をしている生徒は98%を超えており、各教科で継続的に出されている宿題の成果が表れている。その反面、自分で計画を立てて学習をしている生徒は半数を下回っており、自発的な学習が身につけていない。
- 授業中の規律は守られており、国語や数学の勉強は大切であると考えている生徒が多い。また、学校が楽しく、好きな教科があると回答した生徒も全国平均を大きく上回っている。
- 「学校の規則を守っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と全生徒が回答しており、規範意識が高い。
- 学校行事等を通して、学級や学年で協力してやり遂げる経験から、達成感を味わっている生徒が多い。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)



3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組 (全校で・学年で・学級で)

- 授業での生徒間の話し合い活動において、自分の意見をきちんと書いて表現する場面を意識して取り入れる。
- 授業や裁量の時間を利用して、英単語コンクールや漢字コンクールなどを実施する。
 - ・コンクールの成績向上者は表彰したり、各自の取組の成果を発表し合ったりすることにより、学習意欲の喚起を図る。
- 見通しを持たせる工夫や視覚的な情報提示の工夫など、ユニバーサルデザインをとり入れた授業を11月以降、複数回お互いに参観することで、各教科の授業改善に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化の継続
 - ・自学自習ノートを提出させ点検を行う。
 - ・週末課題(英語)や毎日のミニドリルプリント(数学)など、教科の特性に合った宿題を継続していく。
 - ・試験勉強時間のクラス合計値の目標を決め(例えば「めざせ150時間」など)、学習は団体戦であることを意識させ、学習に取り組むきっかけを作る。
 - ・生徒が自発的に予習・復習を行うように指導・助言を継続する。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組を、HPや学校だより、PTA理事会等で保護者に説明し、家庭と連携して協力体制を整える。